

「RFL まつもと」でのトークショー
 本当の愛と幸せを届ける講演家 中村美幸

「RFL まつもと」では、7日、荻原菜緒先生とのトークショーをさせていただきました。その時インタビューを務めてくださったのは、斎藤智恵美さん。医師である菜緒先生と患者家族の私。そこに患者である智恵美さんが加わることで、「ひとつの人生をどう奏でるか」に想いを寄せるトライアングルが完成した気がしました。

その中で感じたのは、先生は「病気」だけを切り取ることなく、「その人の人生そのものに目を向けてくださっている」ということ。「病人」ではなく「今、病気を経験している人」として、その人の人生まるごと迎えてくれているのだと…。そんな先生と、まっすぐに人生を見つめる智恵美さんの姿を傍らで見ている私の中からは、ひとつの人生に向き合う勇気や出会いへの感謝が溢れました。

トークショーのあとは、樋野興夫先生とミニ対談をさせていただきました。その時、私は幾度も「楽しむ」という力強いキーワードを掴んでいた気がします。直接、先生の口からその言葉が出てきたわけではないことを考えると、先生が処方して下さる言葉は、内容はもちろんのこと、微笑みながら「～だよ」と発せられる語尾や、ユーモアの中にも特効がありそうです。

がん征圧・がん患者支援チャリティーイベント
 RELAY FOR LIFE JAPAN CANCER SOCIETY
リレー・フォー・ライフ・ジャパン
2019信州まつもと
 今年の活動テーマ
「わ」 いろいろなわを見つけよう
 日時 9/7(土) 12:00
 ▶ 8(日) 12:00 [24時間]
 会場 信州スカイパーク内 やまびこドーム

がん医療専門医による講演会・トークショー

● 9/7(土) ●	
13:00~ 「アルプスの少女ハイジの現代的意義 ～無邪気に喜んで小さなことに愛を込める～」 講師：樋野 興夫 先生 新庄戸部記念センター長、順天堂大学名誉教授 一般社団法人がん哲学外来理事	14:30~ 「食道がんのお話 ～30年のお付き合いでわかったこと～」 講師：小池 祥一郎 先生 国立病院機構まつもと医療センター院長
16:00~ トークショー 「それでも幸せは足元に ～医師として、家族として、患者として～」 講師：荻原 菜緒 先生 信久総合病院地域ケア科医長 中村 美幸 さん 本当の愛と幸せを届ける講演家	17:00~ 「乳がんの生活習慣」 講師：高木 洋行 先生 松本市立病院 病院長
● 9/8(日) ●	
9:15~ 「がんサバイバーの より良い未来を拓く診療と研究」 講師：廣田 大介 先生 2018年度RFLプロジェクト未来研究者 信州大学先端領域融合研究科バイオメディカル研究所 助教	10:15~ 「がんの漢方治療」 講師：相宮 敬子 先生 信州大学医学部附属病院徳川がんセンター緩和部門部長 緩和ケアセンター長

「リレー・フォー・ライフ 2019」に参加して
 追分あうんカフェ スタッフ 由井晴美

信州で開催されたリレーフォーライフ松本と長野へ初めて参加してきました。

「がん患者は24時間がんと向き合っている」、その想いを共有し支援するためにアメリカで始まった「ともに歩き、語らうことで生きる勇気と希望を生み出したい」というイベントです。

松本では、サバイバーブースで訪れる方々と語らい傾聴。日頃参加しているサロン・カフェ形式のそれとは少し違う感じ。その場で出会ったばかりの人と名前も名乗らずに躊躇なく語り出せる不思議な空気感がありました。自分の心境をとめどなく話す方、何か情報を求めてやってくる人、迷いの中で同士から学びを得たいとやってきた若者…、様々な想いが集います。

特に夜通し語り明かした方はより本音の話が出てきてエキサイティングしたとのこと。広いイベント会場独特の高揚感のなか、リレーウォークでは患者同士、支えあう者同士が歩きながら同じ方向を向いて語り、耳を傾けながら自然と相手の歩調にあわせて。スーッと距離感が近くなる感じです。

長野会場では日没後、ルミナリエバッグが灯され、全員でエンプティテーブルを囲んで大切な人を偲び追悼と希望の励ましを刻む静かな時間を過ごしました。全体を通して、実行委員のみなさんの明るい笑顔と元気パワーをたっぷりいただいたことが印象的です。スタッフにはサバイバーの方が多く、なにか底知れない力を感じます。勇気、優しさ、希望…、言葉にならない深くあたたかいものを受け取った時間でした。

「さあ！一緒に歩いていこうよ」。今、そんな想いでこれからも自分の道を歩き続けていこうという気持ちで沸いています。



<編集後記>

◇リレー・フォー・ライフ・ジャパン 2019 に参加した皆さんのその元気なことと言ったら…。樋野先生の言葉では「病気ではあっても病人ではない」のですね。

そして松本と長野でこのイベントを開催した実行委員の方たちのパワフルな動きとチームワークの良さには…、もう脱帽という外はなかったです。(星野 昭江)

